

# 26Z-am08

沖縄産植物アオバノキ葉部の成分研究

○蔡 文湖<sup>1</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup>, 大塚 英昭<sup>1</sup>, 武田 美雄<sup>2</sup>(<sup>1</sup>広島大院医歯薬, <sup>2</sup>徳島大総科)

【目的】アオバノキ *Symplocos cochinchinensis* (Lour.) Moore はハイノキ科ハイノキ属の植物で、九州・琉球・台湾・中国南部・インドネシアなど熱帯～亜熱帯地域に分布する。新規化合物探索を目的として同植物の葉部の成分分析を行い、新規メガステイグマン配糖体 2 種 (cpds 1, 2) と新規ネオリグナン配糖体 1 種 (cpd 3)、新規セスキテルペン配糖体 1 種 (cpd 4) を単離し、構造決定を行ったので報告する。

【方法・結果】アオバノキの乾燥葉 (12.1 kg) をメタノールで抽出し、常法に従って溶媒分配を行い、1-BuOH の可溶画分 (119.4 g) を得た。得られた 1-BuOH の可溶画分を順次、Diaion HP-20、silica gel、ODS カラムクロマトグラフィー及び DCCC、HPLC で分離、精製を行い、新規化合物 1-4 を得た。新規化合物は NMR スペクトルを中心に、構造決定を行った。さらに CD スペクトル、Mosher 変法を用いて、絶対立体配置について詳細に検討を行った。

